

発行所 〒160-0017
東京都新宿区左門町11番地6の101
社団法人 大学婦人協会
電話 03-3358-2882
FAX 03-3358-2889
http://www.jauw.org
E-mail: jauw@jauw.org
発行人 田中正子
編集責任者 佐々木 澄子

JAUW

おもな記事

- 1 面 会長あいさつ、第50回通常総会議事録
- 2 面 総会開催支部報告、全国セミナー、十年史編纂委員会、支部長名簿、新入会員
- 3～5 面 事業報告、事業計画
- 6、7 面 守田科学研究奨励賞論文概要、国際奨励賞報告会、守田科学研究奨励賞・国内奨励賞募集要項、支部より、国際委員会、その他
- 8 面 2006年度決算報告、2007年度予算

第50回通常総会特集

創立60周年記念の総会、「名称変更」可決

桜満開、陽光溢れる福岡で、通常総会が開催された。60周年を記念しての祝賀に続き、第6号議案（名称変更について）が可決、「公益社団法人」への認可取得を目指すと共に、新しい歩みへ踏み出した。

社団法人 大学婦人協会

第50回通常総会議事録

日時：2007年4月8日（日）
場所：JALリゾートシーホークホテル「アルゴス」
出席者：出席者 134名 委任状 729名
計 863名
出席支部：札幌・秋田・仙台・新潟・茨城・栃木・群馬・長野・東京・神奈川・静岡・愛知・岐阜・金沢・福井・京都・奈良・大阪・神戸・岡山・広島・大分・熊本・長崎・福岡
欠席支部：小樽・函館・福島・山口・愛媛・高知・鹿児島
以上7支部
議長承認 定款第5章第29条による



総会を終えて

会長 田中正子

や教育の問題を含む広い視野での体系化を考へておられること、そのなかで、高等教育を受けた女性の役割は大きいと話され、記念の総会にあふらしい講演となりました。

今回の総会に間に合うために全力で編集された「大学婦人協会史」と「JAUW・JAUW関係資料集」が出席者全員に配られました。特に関係資料集は、これまでのJAUWへの貢献

目指すからです。総会で承認いただきました認定申請準備のための特別委員会が4月理事会の審議を経て発足しました。これまでの業績を踏まえてより公益性のある団体を目指して必要な事項について検討していただきます。

委員9名のうち3名は支部長（東京、神奈川、茨城）にお願いしました。法人改革を通して支部との連携が一層強まることを期待しています。本部

ここで忘れてはならないのは、本部と支部の関係は決して上意下達の関係ではないということです。全国の会員は全て支部に所属しており、支部長で構成される評議員会は、本部の収支決算予算および組織運営を監督する立場にあります。50年前に法人化された時に既にこのような発展性のある組織にされた先輩諸氏の慧眼は、敬服するばかりです。会員の皆様も、支部の位置づけについてもう一度認識を新たにしたいと思っております。

2年越しの第6号議案（名称変更について）が可決されました。今後は、定款の改訂に合わせて作業が進められます。

現在の大学婦人協会の最大の課題は、会員の減少を少しでも食い止めることではないでしょうか。活動を通して私たちが自身でエンパワーされていくことが、会の魅力につながります。この秋の全国セミナーはその役割を果たす事業の一つとなるでしょう。このセミナーは、前夜のコンサートを含めて、現在の教育の内部する課題をジェンダーの視点から問い直すものです。セミナーの成果が社会への問題提起となり、私たちの意識の変革につながることを願っております。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

り、田中正子会長が議長となる。承認
書記選出 本部 岩田 玲子・牧島悠美子
福岡支部 阿部 智子・加藤志鈴子 承認
議事 第1号議案 2006年度事業報告
(1) 総務 書記 岩田 玲子
「2006年度事業報告」参照
事業報告追加（事業17）
国際奨励賞規定の一部改正 1名当り60万円、100万円を1名当り50万円、100万円に変更した。
(2) 委員会 各委員長
「2006年度事業報告」参照
企画委員会 「教育とジェンダー」シンポジウム
10/14津田塾本館大教室において「ジェンダー問題」をテーマとするシンポジウムを開催。参加者148名（内一般参加者19名、シンポジウムに先立ち、7月9日から9月にかけて3回

シリーズの学習会「教育とジェンダー」を本部会議室において開催（毎回約30名の参加者）。報告書を1月に発行、全会員と関係各団体に送付。財務委員会 本部へ入金（3/17）20万円。合計150万円。
2006年新春のつどいでの募金について、国内奨励賞資金のための募金であるから社会福祉奨励金関連にも使用可能である（窪田国内奨励委員長）。

(3)支部 各支部長
「2006年度事業報告」参照
静岡支部事業報告追加
他団体との活動・交流
5. ユニフェム日本国内委員会所属賛助会員
6. 曹洞宗国際ボランティア会賛助会員
7. 伊豆会賛助会員
8. 子中高生に向けての女性科学者講演会（岡山市との協働事業）についての紹介
9. 福岡支部・山口支部の現状についての質問
10. ③会員増対策として

(1)・(2)・(3)の2006年度事業報告について議長は承認を求めた。承認
福岡支部長 和果 方子
活発な意見交換がなされた。
セミナーの参加方法についての質問。
本部と同じ委員会を設置して活動している支部の報告。
名称変更に伴う連絡決算（1000万円）について 本部との連絡は要。
JAUW本部資料は国会図書館で見られる。
個人情報について 2/3の支部は問題ないが名簿の作成・連絡方法に苦慮している支部もある。

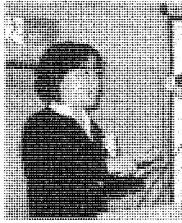
「2006年度決算報告」
収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、支部別会費状況、計算書類に対する注記、奨励金・奨励金の会計参照
中村ミチコ会員からの寄付金を「セミナー・研究等活動資金」の項目と監査報告
監事 五十嵐康子
2007年4月2日、田中トモ子監事とともに事務所において、帳簿・書類・銀行郵便局の通帳など監査を行った結果、収入・支出ともに全て正しく記録されており間違いないことを認めここに報告する。
事業監査報告
監事 田中トモ子
2007年4月2日、五十嵐康子監事とともに事務所において事業監査を行った。今年大学婦人協会は創立60周年を迎えるに当たり、理事会は記念行事を2年計画で立案、全国セミナーも独自の予算で隔年実施すること、の公益法人制度改革が2008年には実施されることになり、公益社団法人認定申請のための準備が必要となった。また昨年度の通常総会で審議未了となった「名称変更」の問題もあり、まさにこの2年間は変革の時期と位置づけられるにあふ



第50回通常総会 福岡JALリゾートシーホークホテル「アルゴス」にて（2007年4月8日）

功労高齢会員について本部と連携をとり、支えて差し上げた。意見 節目会員へのお祝いカードは特に活動している方および必要としている方にお送りしてほしい。（会長）
「人道科学」――その道程と挑戦
日本赤十字九州国際看護大学学長 喜多悦子氏
国連で紛争難民のための健康・保健を担う。ルワンダの例を挙げながら、人道科学とは何か、そこに行き着いた過程を必要

な知識なども含め、具体的に話された。教育には自分と自分の周囲を変えよう力がある。国の責任、特に、高等教育を受けた女性が多くのいる国の責任、ということを考えてほしいと結ばれた。
1. 協会十年史ならびに資料集を編纂したこと。
2. 全国セミナーは、今われわれが社会に対して強く啓発すべき課題「教育とジェンダー」を総合テーマにあげ、今年度は前段として「高等教育の視点からジェンダー」と学習会を開催、来年のセミナーへ向けて問題提起がなされたこと。
3. 「国内奨励賞資金」が設立されたことにより、国内奨励賞事業が安定し、奨励金のフォローアップとネットワーキング作りが、活動の活性化につながる。こと。
4. アジア大学婦人連盟（UWA）総会に、会長他2名が参加し、発表を行ったこと。
5. 日本女性監視機構（JAWW）に団体として加入、国内外での活動の場が広がったこと。
6. 元会長丸山庸子氏が社会教育功労者として文部科学大臣より表彰されたことは、丸山氏自身のご努力と共にJAUWの活動も社会的に評価されたこと。
なお「名称変更」の問題は理事会でも最優先課題として、この1年間慎重に討議を重ねてこられた。「名称変更」は「定款変更」を伴うものであり、規約に則った手続きにより審議が進められた。その結果、無記名投票により理事の3/4以上の賛成をもって、今年度の総会に「大学女性協会」に変更する案を議題とするに決定し、議題としての議決を待つこととなった。以上のことを認め、ここに報告する。
第2号議案 2006年度収支決算並びに資産状況及び監査報告について議長は承認を求めた。承認
第3号議案 新役員選考委員の承認



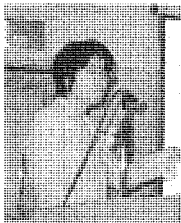
ウイルス感染による発がん機構の 解明と新規治療法の開発

琉球大学大学院医学研究科病原生物学分野 助教
富田 真理子 (分子腫瘍学)

ヒトのがんの中にはウイルス感染が関与しているものが存在し、これまでに白血病やリンパ腫、子宮頸がん、肝臓がんなどの原因ウイルスが同定されている。ここでは、主にヒトT細胞白血病ウイルスI型 (HTLV-I) 感染による発がん機構の解明と治療法の開発について紹介する。

HTLV-Iは成人T細胞白血病 (ATL) の原因ウイルスで、感染者は九州・沖縄地方に集積している。HTLV-Iの主な感染宿主細胞はCD4+Tリンパ球で、感染後に4~5%の感染者が約60年の潜伏期間を経てATLを発症する。日本における感染者は約120万人で、年間約700例のATL患者が発生している。ATLは治療抵抗性が非常に高く、患者の多くが高齢で抗がん剤の副作用に耐えられないケースがあるため、既存の抗がん剤による治療には限界が指摘されている。

本研究で我々は、シグナルの伝達因子β-カテニンがHTLV-I感染細胞に特異的に蓄積して細胞増殖を促進することを明らかにした。HTLV-I感染細胞におけるβ-カテニン蓄積のメカニズムにはウイルスタンパク質Taxが関与しており、Taxが細胞生存因子AKTを活性化することでβ-カテニンの分解を阻害していることも明らかにした。以上の結果から、AKTシグナル伝達経路がATL治療および発症予防の分子標的となりうると推測している。さらに、天然物質由来成分の中にATL治療に有効なものを見出すべく抗ATL効果を検討したところ、ウコンの黄色色素成分であるクルクミンがAKT経路を阻害して抗ATL効果を示すことを明らかにした。クルクミンは悪性腫瘍を含む種々の疾患を予防する作用を持つことが知られているが、その分子機序は不明な点が多い。この成果は、クルクミンをATL治療・予防へ応用するための根拠となると考えられる。



ニュートリノ振動現象の 観測によるレプトン間混合の解明

高エネルギー加速器研究機構 助教
近藤(市川)温子 (素粒子物理学)

1998年岐阜県飛騨市神岡にあるスーパーカミオカンデ検出器で、大気中で生成されたはずのミューニュートリノのうち地球の裏側から来るものが半分に減っているという異常が観測された。また、太陽で生成された電子ニュートリノについても、予測される量の1/3から1/2しか観測にかからない、という問題が報告されている。これは、異なるニュートリノの間で混合が起きており、太陽や大気で生成されたニュートリノが長距離走行した後にスーパーカミオカンデ検出器に辿りつくまでに別の種類のニュートリノに変わってしまったためと考えられている。

私は、ニュートリノ振動現象のうちでも、いまだ観測されていないミューニュートリノから電子ニュートリノが出現する現象に興味を持ち、長基線ニュートリノ振動実験に携わっている。この振動が起こるのかどうかは、素粒子の混合の起源を探る上で重要な問題となっている。また、この現象をニュートリノの場合と反ニュートリノの場合で比べることができれば、物質-反物質間の対称性の破れの測定を行うことができ、宇宙の成り立ちの謎の解明に一步、迫ることができる。

実験は、茨城県東海村で加速器を用いてミューニュートリノを人工的に作り出し、約300km離れた岐阜県飛騨市神岡のスーパーカミオカンデに撃ち込んで行うものであり、平成21年に実験開始が予定されている。ニュートリノは、稀にしか物質と反応しないため、大強度のニュートリノ・ビームが必要である。私は、大強度ニュートリノ・ビーム実現のため、ニュートリノを生み出すパイ中間子をレンズのように収束させる役割をもつ電磁ホーンというニュートリノビーム生成の鍵を握る装置について、概念設計から始まり、開発、製作を行っている。

守田科学研究奨励賞受賞者論文概要

2008年~2009年度IFUW Fellowship およびGrant応募要項のお知らせ

国際奨学委員長 平野 和子

IFUWより、2008年~2009年度FellowshipおよびGrantへの応募要項についてお知らせが来しましたので下記のとおり、ご紹介します。応募される方は、2007年9月30日までに、JAUW国際奨学委員会に応募書類をご提出ください。なお、応募要項の詳細は、<http://www.ifuw.org/fellowships/instructions.doc> 応募用紙は<http://www.ifuw.org/fellowships/form.doc> をご覧ください。Fellowship (研究奨励金)

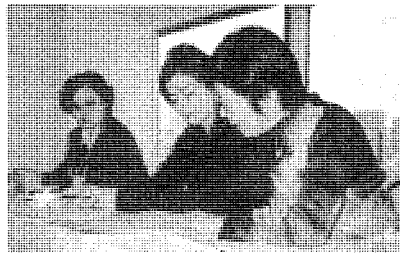
- 1) British Federation Crosby Hall Fellowship 2,500 英ポンド
- 2) カナダ大卒女性協会、Vibert Douglas International Fellowship 12,000 カナダドル
- 3) Ida Smedley Maclean International Fellowship 8,000~10,000 スイスフラン
- 4) Ruth Bowden Fellowship 8,000 スイスフラン
- 5) Marjorie Shaw International Fellowship 3,500 英ポンド

募集対象
・ドクターコース1年次修了者の研究
・それまで教育を受け、あるいは居住している国以外の国で8カ月~12カ月を要する研究に従事する者。ただし、1) および5) はイギリスで研究を行う。
・生活費は含まれておらず、滞在期間中の生活費等の費用をまかなえること Grant (奨学金)

- 1) ニュージーランド大卒女性連盟 Daphne Purves International Grants 3,000~6,000 スイスフラン
- 2) Winifred Cullis Grants 3,000~6,000 スイスフラン
- 3) Australian Universities Grants 5,000 スイスフラン

募集対象
・大卒者の研究を対象にした奨学金
・それまで教育を受け、あるいは居住している国以外の国で最低2カ月を要する研究

ただし、3) はオーストラリアの5州の大学(別に規定)の一つで研究する共通する応募資格
・大学卒業資格をもち、IFUWに加盟する連盟・協会の会員であること
・2008年5月1日以後に研究を開始し、2009年12月31日までに終了すること
・Fellowshipへの応募者は、ドクターコース1年次を修了していること
・Grantへの応募者は、研究を行う予定の機関への入学を認められていること
その他、詳細は前記応募要項に記載されているとおり
選考結果については遅くとも2008年3月31日までに発表される予定



左より平野委員長、ウェッキオさん(中央)と通訳の加納委員

2006年度国際奨学生コンペリア・ウェッキオさんの研究報告会が、3月17日、アルカディア市ケ谷で開かれた。ウェッキオさんの研究テーマは「日本とフランスにおける女性の政治参画」であるが、来日の遅れで研究半ばという状態で、本憲法改正についてこれまで研究したことが発表の主題だった。本国で憲法について研究していたウェッキオさんは、これまでフランスでほとんど知られておらず、研究されたこともない日本の憲法、特に第9条に興味を惹かれたと言います。第9条が世界に類のない平和主義の現れと評価した。憲法は単なる法律文というよりも、国民の生活に密着したものであるとして国民が内容をよく知っておくことが大切であり、特に若い人が憲法をよく勉強した上で改正の是非の判断をして欲しいと希望を述べた。

ここで休憩に入り、この間を利用して東京支部からの記念品が森川支部長から手渡された。再開後、フランスの女性の地位について幾つかの視点から語った。まず労働市場における女性の地位について話し、過去40年間に働く女性が増え、伝統的に男性の職場だった領域にも進出するようになり、労働市場に占める女性の比率は46%に達し、子どもが生まれても仕事を続ける女性が大部分だという。だが、男女の賃金格差は依然として24.5%と高く、しかも非正規のパートタイムで働く女性の比率が高く、フランスのワーキング・プアは女性であると述べた。

次に、女性の政治参画についての話に移り、フランスの国民議会に占める女性の比率は13.9%と、ヨーロッパ諸国の中でも下から2番目と低い現状が紹介された。高等教育機関における女性教授の比率についても紹介されたが、文科系で14.16%、理科系では数%と非常に少ない。このように、働く女性の地位にしても、政治参加の点でも、フランスの女性の地位は日本の現状と大差ないように思えた。日本の著名な憲法学者と直接会って多くの学びを取り、何らかの形で架け橋になりたいというウェッキオさんの今後の研究の発展に期待したい。(平野 和子)

英女性学士協会(BFWG)を百年前に誕生させた歴史あるマンチェスターは、再開によって昔日の面影を一新していると聞き、お茶を飲む習慣は、ほぼ普遍的に世界中に広まっています。これは、茶の持つリラックス効果、人とのコミュニケーションになって楽しく人災も避けられる、そして、お茶を飲む習慣は、に、ご自分の抹茶碗一つお持ちいただければ、大いに助かります。ご参加をお願い申し上げます。(国際奨学委員会 時枝裕子委員)

《国際奨学生報告会》
「日本の憲法改正について」
——コルネリア・ウェッキオさん(フランス)——
2006年度国際奨学生コンペリア・ウェッキオさんの研究報告会が、3月17日、アルカディア市ケ谷で開かれた。ウェッキオさんの研究テーマは「日本とフランスにおける女性の政治参画」であるが、来日の遅れで研究半ばという状態で、本憲法改正についてこれまで研究したことが発表の主題だった。本国で憲法について研究していたウェッキオさんは、これまでフランスでほとんど知られておらず、研究されたこともない日本の憲法、特に第9条に興味を惹かれたと言います。第9条が世界に類のない平和主義の現れと評価した。憲法は単なる法律文というよりも、国民の生活に密着したものであるとして国民が内容をよく知っておくことが大切であり、特に若い人が憲法をよく勉強した上で改正の是非の判断をして欲しいと希望を述べた。

《国際委員会》
IFUWマンチエスター総会近づく
第29回総会への期待
5月半ば、IFUW総会資料がウェブサイトに掲載されました。ケニオン会長は「猛烈に行動した3年間」。米国協会の会費不払いを機に、本部移転や職員解雇を断行。一方で膨大な歴史資料を在オランダの女性運動センターに運び入れ、仕事を役員やボランティアに振り分け、会議に代えメール、ウェブを使いこなすなど、くじけるところが「変革の担い手としての女性」を地で行ったのです。総会では彼女らのパワフルに触れることでしょう。

今回は学際セミナーに青木裕子元会長、ワークショップに房野桂、植原映子、時枝裕子委員らの3グループが参加します。どんな成果や交流が生まれるか楽しみです。

「総会にいらつしやる皆様には、ご自分の抹茶碗一つお持ちいただければ、大いに助かります。ご参加をお願い申し上げます。(国際奨学委員会 時枝裕子委員)」

の良循環の結果でしょう。そこで国際委員会にも協力をお願いし、当初は世界中の子どもたちの学校生活に茶の時間を勧めるセミナーを考え、総会の事務局に連絡しました。
「総会参加者が日本式の茶会を体験できるようにワークショップを期待」と返事が来ました。まずはできる範囲で、お茶会を提供します。免許皆伝の方の盆略点前に続き、記録にある最古の単純な大茶会的方式で、私たちの点茶サービス、さらにお客様自身にも試みていただく予定です。



英国の風景
—Eilean Dolan Castle—

いつまでも、
見つめ続けるチカラを。

「ボッシュロム オキュバイト+ルテイン」は
ビタミン、ミネラル、ルテインを
バランスよく配合した
栄養機能食品(サプリメント)です。



「オキュバイト」に関してのお問い合わせは
0120-098148 <http://www.ocuvite.jp>
サンプルを差し上げています。上記までお問い合わせください。

〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-2 ボッシュロムジャパン株式会社

第10回大学婦人協会守田科学研究奨励賞

受賞候補者募集要項

趣旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。

受賞件数：年2件以内

賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類：1. 推薦状 2. 履歴書(写真添付) 3. 研究業績リスト 4. 主要な論文別刷5編以内、各3部（コピー可） 5. 研究題目とその概要・展望と抱負を記したもの（A4版2頁以内）

応募締切日：2007年11月30日(金)（必着）

書類送付先および連絡先：社団法人 大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6の101

TEL：03-3358-2882 FAX：03-3358-2889



守田科学研究奨励賞贈呈式
田中会長(中央)、向受賞者を囲み和やかな関係者

富田博士は、長崎県出身、九州大学医学部を卒業、外科学を専攻、その後、九州大学大学院医学研究科に入学し、1

第9回守田科学研究奨励賞の贈呈式が、5月12日にアルカディア市ヶ谷で行われた。受賞者は、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所助教の近藤温子博士（原子核物理学、研究上は、琉球大学大学院医学系研究科助教の富田真理子博士（分子腫瘍学）である。

近藤博士は、愛知県出身、京都大学理学部物理学を卒業、同大学院を修了し、2001年に博士（理学・京都大学）の学位を得ている。2002年に高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所のCOE研究員を経て助手に就任し、世界の研究者と競合して原子核物理学の究極の課題に

第9回 大学婦人協会
守田科学研究奨励賞
贈呈式

科学研究奨励委員会委員長 平川 暁子

998年に博士（医学・九州大学）の学位を得ている。その後、ルイ・パスツール医学研究センターの医員・研究員として1年間研修、さらに博士研究員としてフランスで2年、オランダで1年の留学により研鑽を積み、琉球大学大学院医学研究科研究員・非常勤講師を経て、2005年4月より助手に就任し、病原生物学分野・分子腫瘍学の研究に成果を上げると共に、同分野の大学院の研究教育に貢献している。

受賞研究の内容は、それぞれ別稿（6頁）に、本人らが書かれたものを参照していただきたい。が、受賞講演では、一人30分の短い時間にもかかわらず、お二人とも最先端の研究内容とその位置付けを極めて解かり易く話され、その真摯で意欲的な研究生活の様子が伝わってくる思いがした。

賞の贈呈式の際に感じることであるが、このような優れた若い研究者が育っていることはたいへん喜ばしく、大学婦人協会がこれら若い方々を支援し、励ますことに寄与でき

当日は受賞者の上司・共同研究者、ご家族、過去の受賞者などに加え、お祝いメッセージや、新聞記者の参加もあり、多数の会員諸師の出席を得て、50名に近い盛会であった。

《支部により》

タイとインドへの奨学金
支援活動を中心に

金沢支部長 安原 和子

金沢支部はJAUWに加わるブラザー・姉妹の財団の事業として20年になるが、前身業の一つ教育里親制度に協関係者と支部会員とで設立した。この基金をつくるためにチャリティ活動として後40年独自の活動を行って、4人目チユラコンコン大に当てる。2003年より現在までに、のべ26名に支援した。茶会は抹茶席、煎茶



KJS奨学金・奨学生に奨学金を手渡す（右がカシミール大学学長）



大学婦人協会金沢支部チャリティ茶会

ね、お茶や生け花、水墨画、折り紙等で心温まる交流をした。もう一つは、インドカシミール州の女子学生に奨学金支援をするKJS奨学金で、1999年、カシミール大学学長の要請により女性教育福祉協会および大学関係者と支部会員とで設立した。この基金をつくるためにチャリティ活動として後40年独自の活動を行って、4人目チユラコンコン大に当てる。2003年より現在までに、のべ26名に支援した。茶会は抹茶席、煎茶

この事業は、学生と関係者からとても感謝され期待されている。奨学生に会いたくて訪問したい、と毎年考えるが、カシミールは紛争地で危険と言われているので実現できない。でもいつの日か訪ねたい。それ以上に、奨学金等は必要としない平和な時代が来ることを願い、今後も継続したいと思う。



黄葉した銀杏並木の散策（札幌支部）

楽しみながら活動しよう

札幌支部長 藤田 洋子

札幌支部では、今年度の「会」、8年目の「パステル例会活動として「国際交流画を描く会」、「英文雑誌を「宇宙と隕石の話」、そして「女性研究者支援室をめぐって」（何れも仮題）の4テーマを取り上げて開催する予定です。また、20年以上続いている「古典輪読会」をはじめ、ページに札幌支部のホームページを設けていますが、

今年4回の更新によって最新の情報をきめ細かく提供していきたいと考えています。こういった活動は、会員の一人一人が智慧と技術と時間を持ち寄って皆が楽しんで作らなければならない、その中で素敵な人間関係が出来ている、そんな支部活動なのです。支部の発足からおよそ60年、先輩諸師の優れた企画力と弛まぬ努力によって、現在の活動の「基盤」が築かれました。そこに支部の持つ強さを感じています。

2007年度大学婦人協会国内奨学生募集要項（抜粋）

本協会国内奨学金は、女性の高等教育向上と研究生生活を奨励し、文化の発展に貢献するため、優秀な女子学生に教育資金または研究資金を与えることを目的とし、1948年に設立されたものである。

I 応募資格

一般奨学生

文部科学省の認可する大学の大学院に1年以上在籍する女子学生で、人物・学業ともに優れた者。なお、一般奨学生のうち女性、教育、国際協力に関する研究をしている学生1名は、本協会の設立に寄与されたルル・ホームズ氏を記念してホームズ奨学生と呼ぶ。

社会福祉奨学生

文部科学省の認可する大学（短期大学を除く）の学部・大学院に1年以上在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ人物・学業ともに優れた者。

安井医学奨学生

医学、薬学、看護学などを専攻する大学院に1年以上在籍する女子の大学院生で、人物・学業ともに優れた者。なお、本協会の会員であるか、または授与の時までに会員になること。

II 奨学金支給額及び募集人員

一般奨学生

大学院生 1名につき 20万円 6名（ホームズ奨学生を含む）

社会福祉奨学生

学部生 1名につき 10万円 学部生、大学院生あわせて3名

大学院生 1名につき 20万円 以下とする。

安井医学奨学生

大学院生 1名につき 30万円 1名

III 提出書類

- 履歴書（市販B4版のもの、写真貼付、自筆のこと）
- 大学婦人協会所定の奨学金交付調書（記入者は在学する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること）
- 在学する大学の交付する学業成績証明書
- 小論文（下記のそれぞれの課題を1200字〔A4判 横書 40字×30行〕以内にまとめること）
 - 一般奨学生（大学院生）および社会福祉奨学生：
 - 学部生 自分の専攻分野と将来の希望について
 - 大学院生 修士論文または博士論文の計画と将来の希望について
 - 安井医学奨学生：
 - 大学院生 自分の専攻分野と将来の展望について
- 業績リスト（大学院生の場合。所定の様式を使用。）
- 所定の「身体障害状況調書」と障害者手帳の写し（社会福祉奨学生のみ）

IV 応募手続

応募者は、必要書類を所属大学の学長に提出すること（原則として1大学1名とする）。

V 出願締切日

2007年9月14日(金)までに、東京都ならびに本協会支部が設置されていない地域の大学は本協会本部に、支部が設置されている地域の大学は当該支部に書類を提出すること（当日消印有効）。

社団法人 大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6の101

TEL 03-3358-2882 FAX 03-3358-2889

http://www.jauw.org e-mail:jauw@jauw.org



2006年度 社団法人 大学婦人協会収支決算報告書及び貸借対照表

収 支 計 算 書

(2006年 4 月 1 日から2007年 3 月31日まで)

貸 借 対 照 表

2007年 3 月31日現在

(単位:円)

(単位:円)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	科 目	予算額	決算額	差 異	備 考	科 目	金 額		
I 収 入 の 部					II 支 出 の 部					I 資 産 の 部			
1 基本財産運用収入	20,100	68,551	△48,451		1 事業費	11,015,000	10,534,086	480,914		1 流動資産			
基金口座利息					セミナーナ	200,000	1,147,385	△947,385	前年度 日本・中東女性含む	現金	165,566		
事業基金利息	10,000	26,729	△16,729		奨学金	1,200,000	1,200,000	0	20万円×6名	普通預金	5,242,261		
ホームズ基金利息	100	1,299	△1,199		社会福祉奨学金	300,000	300,000	0	10万円×3名	定期預金	4,850,000		
国際奨学金基金利息	10,000	40,523	△30,523		贈呈式参加費	100,000	93,810	6,190		郵便振替	734,430		
2 入会金収入	60,000	53,000	7,000		国際奨学金	2,000,000	1,506,900	493,100	70万円×2名	流動資産合計		10,992,257	
入会金	60,000	53,000	7,000	¥1,000×53名	安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000	30万円×1名	2 固定資産			
3 会費収入	8,490,000	8,160,000	330,000		守田科学研究奨励金	1,260,000	1,218,259	41,741	50万円×2名	基本財産			
正会員会費収入	8,400,000	8,076,000	324,000	¥6,000×1346口	若手会員育成金	1,000,000	200,630	799,370		事業基金	44,600,000		
賛助会員会費収入	90,000	84,000	6,000	¥6,000×14口	分					ホームズ基金	2,000,000		
4 補助金収入	0	751,916	△751,916		IFUW・UWA会費	2,020,000	2,128,000	△108,000	06年分支払 1250名	国際奨学金基金	40,000,000		
日本・中東女性交流補助金	0	751,916	△751,916	前年度 日本・中東女性交流	IFUW関係連絡費	100,000	100,000	0		基本財産合計	86,600,000		
5 寄付金収入	1,100,000	12,376,434	△11,276,434	財団委員会 150万円・中村ミヅコ氏 1,000万円・放山崎みね子 10万円・東京支部 10万円・愛知支部 35,285円・その他	NGOその他	45,000	45,000	0		その他の固定資産			
6 雑収入	1,512,000	1,438,052	73,948		助成	50,000	50,000	0	ビーナ・ロイ事業支援金	特定預金			
受取利息					支部振興費	85,000	63,200	21,800		国際奨学金	17,196,821		
運用財産利息	2,000	2,897	△897		各委員会活動費	620,000	470,712	149,288		国内奨学金	9,460,797		
審査手数料	0	0	0		図書・資料費	5,000	0	5,000		安井医学奨学金	6,291,008		
広告料収入	150,000	334,500	△184,500		印刷製本費	0	0	0		守田科学研究奨励金	16,860,718		
総会参加費	690,000	474,000	216,000	¥3,000×158名	名簿発行	1,350,000	1,248,450	101,550	年4回発行	ホームズ奨学金	310,861		
雑収入					会報	20,000	100,000	△80,000		若手会員育成金	5,779,016		
分担金	570,000	570,000	0	東京支部管理費分担	通信運搬費	350,000	361,740	△11,740		セミナー・研究等活動費	10,600,000		
名簿	0	0	0		給料・手当	5,243,700	5,059,401	184,299		退職給付積立金	60,016		
私用電話他	100,000	56,655	43,345		給料・夏・冬手当	1,930,000	1,730,802	199,198		土地建物	36,400,024		
7 特定預金取崩収入	6,070,000	4,745,439	1,324,561		法定福利費	310,000	261,452	48,548	労働保険・社会保険	什器・備品	500,000		
安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000		会費	1,400,000	1,382,832	17,168		電話加入権	100,000		
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,237,909	22,091		理事會費	0	0	0		その他の固定資産合計	118,316,837		
国際奨学金	2,000,000	1,506,900	493,100		役員選考委員会費	0	0	0		固定資産合計		204,916,837	
国内奨学金	1,500,000	1,500,000	0		旅費交通費	60,000	60,000	0		資産合計			215,909,094
若手会員育成金	1,000,000	200,630	799,370		通信運搬費	200,000	145,997	54,003		負債の部			
A 当期収入合計	17,252,100	27,593,392	△10,341,292		什器備品費	100,000	149,293	△49,293		1 流動負債			
B 前期繰越収支差額	10,000,000	10,052,559	△52,559		消耗品費	380,000	528,349	△148,349		2 固定負債			
C 収入合計 (A+B)	27,252,100	37,645,951	△10,393,851		印刷製本費	40,000	10,500	29,500		退職給付引当金	60,016		
					負担金	325,200	325,200	0		固定負債合計		60,016	
					光熱水料金	140,000	120,142	19,858		負債合計			60,016
					諸謝金	120,000	120,000	0	会計士謝礼				
					租税公課	168,500	157,900	10,600	固定資産税				
					雑費	70,000	66,934	3,066		正味財産の部			
					3 繰入金支出	860,000	11,060,207	△10,200,207		正味財産			215,849,078
					事業基金繰入	0	0	0		(うち基本金)			(86,600,000)
					退職給付積立金繰入	30,000	30,000	0		(当期正味財産増加額)			(7,282,393)
					国際奨学金積立金繰入	10,000	50,523	△40,523		負債及び正味財産合計			215,909,094
					ホームズ奨学金積立金繰入	10,000	1,299	8,701					
					国内奨学金積立金繰入	10,000	378,385	△368,385					
					セミナー・研究等活動費繰入	800,000	10,600,000	△9,800,000	中村ミヅコ氏より寄付金含む				
					4 予備費	100,000	0	100,000					
					D 当期支出合計	17,218,700	26,653,694	△9,434,994					
					E 当期収支差額 (A-D)	33,400	939,698	△906,298					
					F 次期繰越収支差額 (C-D)	10,033,400	10,992,257	△958,857					

○監査報告 監査の結果、収入・支出ともにすべて正しく記録されており間違いないことを認めます。

平成19年 4 月 2 日

監事 五十嵐 康子 田中トモ子

2007年度 社団法人 大学婦人協会収支予算書

(2007年 4 月 1 日から2008年 3 月31日まで)

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減(△)	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	増減(△)	備 考
I 収 入 の 部					II 支 出 の 部				
1 基本財産運用収入	20,100	20,100	0		1 事業費	14,430,000	11,015,000	3,415,000	
基金口座利息					セミナー補助事業金	2,150,000	200,000	1,950,000	
事業基金利息	10,000	10,000	0		奨学金	900,000	0	900,000	
ホームズ基金利息	100	100	0		一般奨学金	1,200,000	1,200,000	0	¥200,000× 6 名(ホームズ奨学金を含む)
国際奨学金基金利息	10,000	10,000	0		社会福祉奨学金	300,000	300,000	0	¥200,000× 1 名 ¥100,000× 1 名
2 入会金収入	60,000	60,000	0		贈呈式参加費	100,000	100,000	0	
入会金	60,000	60,000	0	¥1,000×60名	国際奨学金	2,000,000	2,000,000	0	¥1,000,000× 2 名
3 会費収入	8,490,000	8,490,000	0		安井医学奨学金	310,000	310,000	0	¥500,000× 2 名
正会員会費収入	8,400,000	8,400,000	0	¥6,000×1400口	守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0	
賛助会員会費収入	90,000	90,000	0	¥6,000×15口	若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0	
4 セミナー参加費	450,000	0	450,000	参加者 150名	分				
5 セミナー補助事業	900,000	0	900,000		IFUW・UWA会費	2,130,000	2,020,000	110,000	18スイスフラン×1250名
6 寄付金収入	1,200,000	1,100,000	100,000		IFUW関係連絡費	100,000	100,000	0	
会員その他寄付	1,200,000	1,100,000	100,000	含む東京支部指定寄付10万円	NGOその他	55,000	45,000	10,000	JAWW(日本女性監視機構)会費1万
7 雑収入	1,483,000	1,512,000	△29,000		助成				
受取利息					IFUW寄付金	50,000	50,000	0	ビーナ・ロイ事業支援金
運用財産利息	3,000	2,000	1,000		支部振興費	60,000	85,000	△25,000	
審査手数料	0	0	0		各委員会活動費	620,000	620,000	0	含む特別委員会調査費3万
広告料収入	150,000	150,000	0		図書・資料費	5,000	5,000	0	
総会参加費	690,000	690,000	0	¥3,000×230名	印刷製本費	0	0	0	
雑収入					名簿発行	0	0	0	
分担金	570,000	570,000	0	東京支部管理費分担	会報	1,350,000	1,350,000	0	年 4 回発行
私用電話他	70,000	100,000	△30,000		その他の	20,000	20,000	0	
8 特定預金取崩収入	6,870,000	6,070,000	800,000		通信運搬費	360,000	350,000	10,000	
安井医学奨学金	310,000	310,000	0		60周年記念事業	60,000	0	60,000	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0		10年史編纂費	400,000	0	400,000	
国際奨学金	2,000,000	2,000,000	0		2 管理費	5,123,700	5,243,700	△120,000	
若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0		給料・手当				
国内奨学金	1,500,000	1,500,000	0		給料・夏・冬手当	1,860,000	1,930,000	△70,000	
セミナー・研究等活動資金	800,000	0	800,000		法定福利費	310,000	310,000	0	社会保険・労働保険
					会費				
					総議費	1,400,000	1,400,000	0	
					理事會費	0	0	0	
					役員選考委員会費	0	0	0	
					旅費交通費	60,000	60,000	0	
					通信運搬費	200,000	200,000	0	
					什器備品費	50,000	100,000	△50,000	
					消耗品費	380,000	380,000	0	
					印刷製本費	40,000	40,000	0	
					負担金	325,200	325,200	0	
					光熱水料金	140,000	140,000	0	
					諸謝金	120,000	120,000	0	会計士謝礼
					租税公課	168,500	168,500	0	固定資産税
					雑費	70,000	70,000	0	
					3 繰入金支出	150,000	860,000	△710,000	
					事業基金繰入	0	0	0	
					退職給付積立金繰入	30,000	30,000	0	
					国際奨学金積立金繰入	10,000	10,000	0	
					ホームズ奨学金積立金繰入	10,000	10,000	0	
					国内奨学金積立金繰入	100,000	90,000	10,000	
					セミナー・研究等活動資金	0	800,000	△800,000	
					4 予備費	80,000	100,000	△20,000	
A 当期収入合計	19,473,100	17,252,100	2,221,000		D 当期支出合計	19,783,700	17,218,700	2,565,000	
B 前期繰越収支差額	10,000,000	10,000,000	0		E 当期収支差額 (A-D)	△310,600	33,400	△344,000	
C 収入合計 (A+B)	29,473,100	27,252,100	2,221,000		F 次期繰越収支差額 (C-D)	9,689,400	10,033,400	△344,000	

借入金限度額 2007年度 0円

債務負担額 なし